



2020年度 9月人権一口講座



「女子高校生の小さな行動」

二十数年前、初海外一人旅で、アメリカ・サンアントニオへ行きました。不安でいっぱい私の私を現地の方々は温かく迎えて下さって、なにより私のつたない英語に耳を傾けて、笑顔いっぱい「YES, YES, OK!」と毎回せかさず会話をしてくれました。良い思い出にあふれた地「サンアントニオ」を思い出させてくれるのが市電『サンアントニオ号』です。『サンアントニオ号』の車内広告は、現地の紹介写真や色鮮やかな広告で満ちています。待っていて遠くからその姿が確認できると、嬉しさのあまり、乗車寸前に小さくガッツポーズをしてみます。

ある日、期せずして待望の「サンアントニオ号」に乗れ、自分が決めている定位置「電車前方・運転席後ろ右ドア辺り」に立ちました。

「ピンポン」と停車ボタンの音が車内に響きました。すると、女子高校生四人が降車口へと近づくとその前に、よく周囲が見えないくらい視力が悪いと思われる男性がゆっくりと歩いて降りようとされていました。じいっと見ると、女子高校生の一人がその方の肘を持ち「もうすぐ降り口です。そこでお金を払って降りますよ。」と誘導しているのです。「なん、短かかスカートで唇には赤めのリップを付けてやれてから…」なんて見た目で判断して決めつけて、見誤る所でした。

「違いました！」見て感心しました。男性をサポートしながらもゆっくりゆっくりと周りを囲み歩む四人の女子高校生に脱帽です。「貴女達は素晴らしい！」と褒めるべきでしたが、言葉に表せなかった自分が恥ずかしいくらいです。

降車寸前、視覚障害があるその男性が料金箱に運賃を入れようとされましたが、料金箱がはつきり見えないらしく、男性の手が右に左に動いていました。すると、運転手さんが「お客さん、どうぞこのまま私の手の上に置かれて下さい。」とさつと両手を差し出し、優しく手首を支えられました。その男性はお金を払い降りられましたが、その後です。運転手さんは、その様子をせかすことなく待っていてくれた女子高校生に「今日は協力ありがとうございました。」と会釈して言われていました。その高校生達は「(乗車して)の感謝として」ありがとうとごいしました。「と降り際に言い、プラットフォームからきらした笑顔で立ち去りました。

このような光景は、障害者と健常者が一緒に暮らす社会の目指すべき当然の一場面なのではないでしょうか。大好きなこの電車の中で、このような機会に遭遇したこの日一日、私は会う人すべてに笑顔で接することが出来ました。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」九月号より)

短いメッセージ 一人ぼっちの通学路 友達という通学路
ちがう景色 同じ道

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー- 託麻原小学校 6年 岩戸 奈菜さんの作品より (2019年度)